



<ベースキャンプの日よけ屋根の補修>



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	海外ボランティア活動体験記ー7	7
Monthly Repo ならやま	2	Galleryならやま	8
里山の今（里山・エコ）	3	行事案内ー1	9
佐保川小学校自然観察学習支援・レポ	4	行事案内ー2	10
あと一步を踏み出す勇気をもとう	5	幹事会報告・編集後記	11
私見マムシ考	6		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉はかろうじて生きているようで、さすがに猛暑日はなくなった。かまびすしかった鈴虫の声が優しくなって確実に季節は秋だということを知らせてくれている。ならやまでも栗の実が落ち、柿の実がたわわになり、田圃の稲は豊かに実った穂を垂れて子どもたちが刈り取ってくれるのを待っている。

10月は実りの秋を迎えてのイベントが予定されている。台風シーズンでもあり心配の種はつきないが、活動時間も1日に戻り、暑かった夏も思い起こしながら、少しゆったりとした時間を楽しみ、子どもたちとともに秋の実りを享受したい。

さりとても、その実りを侵食するモノたちがいることはまことに悩ましい。

## 10月の活動特記事項

10月5日(木)：協働活動(アダプトプログラム、佐保台小学校農事体験(稲刈り))

10月15日(日)：朝日・親と子の自然環境教室(雨天順延：10月22日(日))

10月28日(土)：芋ほりイベント(雨天順延：11月4日(土))

## 10月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(No.5部分皆伐)、自然の森観察路倒木処理 薪割り、下草刈り、イベント片付け(遊びの森) ユート：アカマツの森でのマツの間伐・草刈り
エコファーム	稲刈り(佐保台小農事体験、朝日親と子の自然環境教室)、脱穀・粃摺り 芋ほりイベント準備と実施 葉野菜手入れ、畑(南4)整備、豆類種まき
景観	整備：刈り払い機点検整備、ベースキャンプ・彩の森草刈り ミツバチ巣箱整備 ビオ：池・水路の景観保全・整備 花：野草園、自転車道路周辺の花壇整備
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り 水汲み場補修
果樹	旧鹿よけフェンスの撤去、実りの森の除草、灌木整理

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

8月24日(木) 晴 68名

まだまだ夏本番で気温が高く、熱中症など注意が必要。

里山Gは自転車道沿いの倒木処理、薪割り、竹林の処理。エコGは畑周辺の草刈り、ナスなどの収穫。景観GはBC周辺、野草園、彩の森などの草刈り。花班は山野草園の草引き。ビオ班はビオエリアと湿地の草刈り。パトロールGは観察路2コースのパトロール、観察路の倒木処理、BCのテント補修。果樹Gは梅林の軽剪定、実りの森の剪定と除草。

午後2時30分過ぎの豪雨、突風で自転車道をまたいで水田ぎわまで大樹が2本倒れる。



8月31日(木) 晴 63名

8月最後の活動日。暑くて熱中症の心配がある中、各Gの応援でBCのテントの補修を行う。新型コロナ感染拡大の影響で参加者が少し減った。一部で熱中症ぎみの人が出る。

里山Gは自転車道沿いの倒木処理、薪用玉切り、BCのテント補修支援。エコGは畑周辺の草刈り、ナスなど収穫。景観Gは谷道の草刈り支援、BCなどの草刈り。花班は自転車道沿い千日紅の花壇の草引き。ビオ班は水中ポンプで北水田に水を入れ、水路の泥上げ、草刈りを行う。パトロールGは観察路3コースのパトロール、谷道の笹刈り、BCのテント補修、自然工作の準備など。果樹Gは梅林の軽剪定、BCのテント補修支援。



9月7日(木) 晴 66名+2名

シニア自然大学から2名来訪し、朝日親子イベント・こどもゆめくらぶ里山体験イベントの打合せをする。

協働活動としてアダプトプログラム(周辺ごみ拾い清掃)を実施。

里山Gは彩の森の倒木処理、植樹部分の下草刈り、薪割りなど。エコGは畑の草刈り、落花生・カボチャなど手入れ、ピーマンなどの収穫。景観Gは梅林の下草刈り、BC周辺草刈り整備、テント補修支援。花班は山野草園の草引きなど。ビオ班はビオエリアの草刈りと水路掃除。パトロールGは観察路1コースのパトロール、谷道の笹刈り、テントの補修。果樹Gは実りの森の除草、看板の補修。

9月14日(木) 晴 65名+1名(学生)

半日活動は本日で終了し、来週21日から終日活動とする事を連絡。終礼後、こどもゆめくらぶ里山体験イベントの打合せを行う。

京都大学の学生(1名)の里山研究に協力、しばらく一緒に活動することになった。

里山Gは遊びの森でイベント準備、楢木置場の整備。エコGは秋の野菜、じゃが芋植付け、畑の整備、ピーマンなどの収穫。景観Gは佐保自然の森の草刈り。花班は山野草園周辺草刈り。ビオ班はザリガニ駆除、刈り取った草の撤去、西池北側湿地の葦の刈り取り。パトロールGは観察路2コースのパトロール、観察路の階段補修と草刈り、テント補修、数珠玉整備など。果樹Gは栗の収穫、実りの森の除草など。

里山グループ



エコグループ

里山G

坂東 久平

10年前、里山林の保全活動をしているボランティア団体と思い入会した。実は山以外にも畑や池、草刈りなどもあったが、山歩きが好きだったので迷わず里山Gに入った。

最初の1年は第5区(実りの森)の整備にかり出されることが多く大変だった。

山では樹齢40~50年のコナラの伐採を、SさんやOさんが職人技でチェーンソーを使って大木を伐倒する、ユックリと傾き地響きを立て倒れる、何とも荘厳な雰囲気である。

私たちの仕事は、手鋸と剪定鋏を使って、小枝を40cmほどに切り適当に積み上げて自然に帰るのをお助けすることであった。後に講習を受けてチェーンソーの取扱資格も取得したが、体力的に難しく山での戦力とはならなかった。

ナラガレがならやまに侵入し、被害木の伐倒や、毎木調査でコナラの実態を調べたりして、大変な時代を過ごし、ようやく2018年の調査でナラガレの収束を確認出来た。

今里山Gでは、約7haのならやま里山林の維持と更新再生を主な目的に、



不要な常緑小高木の伐採やモザイク型部分皆伐を行っており、チェーンソーでの伐採や小枝の処理にかなりの戦力を投入している。伐採した木材の再利用に椎茸栽培や薪の生産・販売も行っている。

薪割りも往年の薪割り3人娘が次々とリタイアし、戦力外となった私は一人娘のお手伝いで薪割りに精を出している。

奈良・人と自然の会の最重要テーマは、ならやまの里山林を豊かな姿で次世代に引き継ぐ事であると考えており、これからも体力の続く限り頑張りたいと思っている。

落花生とサツマイモ

山内 京子

野菜たちは、草まみれになりながらも、救出してもらえるのを待ちながら成長を続け、落花生とサツマイモも収穫の時期が近くなりました。

落花生は、マメ科で原産地は南アメリカ。落花生は根に根粒菌が寄生し、根粒菌から養分をもらえるので肥料をたくさん与える必要がありません。この野菜の特徴は、黄色い花が開花した後、花の付け根付近に子房柄が伸びて地中に潜ります。地中で鞘が付き実が熟すので掘り上げて収穫します。連作は避けた方が良いです。10月頃が収穫時期で、塩ゆでして食べるとおいしい。また、実をネットに入れて風通しの良い場所で乾燥させると保存できます。栄養価の高い野菜でビタミンE、ビタミンB、ミネラル、脂質、植物繊維、たんぱく質も多く含まれます。約30粒でご飯1杯分と同じカロリーらしい。

サツマイモはヒルガオ科の一年草で中南米原産。日本には、1600年代琉球から薩摩へ伝わりサツマイモと呼ばれるようになり、江戸時代の青木昆陽が栽培方法を研究し、徳川吉宗が広めました。栄養の少ないやせた土地でも育ち、根と茎を食用にできるので江戸時代の飢饉や戦時中に多くの人々を救った野菜です。連作もできます。サツマイモは、葉が伸びている節の下にイモがつくので複数の節をしっかりと土の中に埋め、葉を上に出して植え付けます。2か月くらい経つと栄養分が分散して蔓にイモがつくので、蔓を畝の上に乗せる蔓返しをします。サツマイモの栄養は、炭水化物が豊富でビタミンB、C、β-カロテン、カリウム、食物繊維を含みます。焼き芋はもちろんのこと、大学芋、栗きんとん、スイートポテト、かき揚げ等用途も広くて嬉しい。

香ばしい落花生、ほくほくサツマイモが収穫できるのを期待しています。

## 佐保川小学校校庭学習レポ

### 自然観察学習支援(夏)

#### 教室内での自然工作

小島 武雄

9月4日(月)朝8時に、佐保川小学校校庭に自然教室メンバー8名が集まりました。少し曇り空ですが、まだまだ蒸し暑い。冷房の効いた2階の視聴覚教室にて待機し、工作準備をします。今日は4年生2クラスの授業です。



1時限目は8時40分からです。初めの挨拶5分、使用するどんぐりなどの植物説明5分、工作20分、あと纏め、の手順を確認。越尾校長、松尾教頭から学習支援のお礼の挨拶がありました。程なく千載会長も合流。

始業の少し前に、4年2組の子どもたちが迎えに来てくれました。案内されて教室に入ると、「あれ!!」ここでハプニング。1クラス20名のつもりが、大勢の子どもたちが待っています。36名もいて、参加人数が大幅に狂い、このままでは、材料が足りない。次のクラスの材料が足りなくなる! 工作授業ができない! どうしよう。頭の中は真っ白とはこのようなことか。子どもたちを前にしても、さすがに山本さんは動



ぜず。予備の材料があるから、なんとかなるのではとの事。みんな、気を取り直して、自然学習授業開始です。奈良・人

と自然の会の挨拶、メンバー紹介をします。

はじめに、飯島さんが、これから自然工作に使う材料を分かりやすく説明し、それぞれの机の上いっぱい新聞紙を広げ、冬青の丸いプレート、クヌギの殻斗、どんぐり帽子、ボンド、ノリの台紙、ティッシュ1枚を並べます。さあ



始まりです。見本の熊のペンダントをしっかりと見つめて、小さな手が可愛らしく動いていきます。

途中仕上がり状態を見て、耳の松ボックリ、

目玉の種など色々、括り紐を配ります。

子どもたちから、先生!「ボンドがつかない」「耳が足りないよ」「目が小さいから、とりかえて」などメンバー8名が付きっきりです。途中、鈴木さんも駆けつけてくださいました、大助かりです。



最後にプレートの穴にカラフルな紐を通して出来上がり。36通りの可愛い熊のペンダント完成です。なかなか個性的な仕上がりに、子どもたちは大満足。ところが、最初のトラブルで授業時間を超えてしまい、次の4年1組の授業開始の音楽が聞こえてきます、大慌てで移動。数が足りないかと心配していた工作材料もギリギリだけど間に合いました。

こちらのクラスも、熊のペンダントは大人気でした。最後の挨拶で、「また秋に来るよ。今度は秋の校庭観察会でね」。子どもたちの大拍手で終了。経験豊富なメンバーのおかげで、何とかなりましたが今回、参加人数確認を誤り皆さまに大変ご迷惑をかけましたこと、お詫びと反省をしています。

## あと一步を踏みだす 勇気をもとう！

谷川 雅邦

年齢を重ねると、いつしか人生の岐路に立たされて、ややもするとその羅針盤が揺らぐ時がある。

誰しも若かりし頃は、何事にも興味が甚大で積極的に行動し、躍動に溢れた若い力と英知が原動力となり、色々な事にも挑戦したものである。

振り返れば・・・失敗を恐れず果敢に激動の時代を生き抜いてきた。ところが、熟年を迎え思考も人生観も変化してゆく中で、当時の活気や覇気の低下が顕著になったのも否めない事実である。

まるで鈍行列車に乗った行くあてのない旅人のような自分にふと気がつき、それは、廃線間近のローカル線のように見える。

でも、たまには、華やかな特急列車に乗り、真新しい景色を探すのだが行く先の構図は、全くもって不鮮明なのである。

押し寄せる年波に溺れ、身体の不自由さを実感し始め、すべてに守りの姿勢が支配的になってしまいがちである。

しかし、体力的な限界はあるものの、気持ちと体力だけは人に負ける事なく前を向いて、あと一步を踏み出す勇気を持ちたいものである。

その事がやがて現状打破に繋がり、新しい発見と創造の意欲を活性化させる起爆剤になるであろう。更に、大事な事は、時を選ばず即座に行動に移して実践する事にその意義がある。

時に、人は人生回顧して、立ち止まり、我が道を振り返る事が少なくないと思うが、私も御多分に漏れず、その機会があった。

最近、竹内まりやの「いのちの歌」にはまっている。ご存じの方もいると思うが生きてゆく事の意味はどこにあるのだろうか！

この世に巡り会えた奇跡、人々の温かさは何よりも宝物だと、泣きたいとき、絶望に嘆く時、いつも寄り添うあなたがいるから。出会った多くの人たち、笑いあった仲間たちすべてに、そしてこの命にありがとう！

この世に生まれてきた事に感謝して、新たな感動と命の大切さがひしひしと伝わり、思わず熱い涙が込み上げてきました。

人生の原点に戻りこれからもこの歌を心の叫びとして、大切に歌って行きたい。これからの残り少ない人生を少しでも実のある豊かなものにするため勇気を持ってあと一步踏み出せば、必ずやきっと目指す目標が、自ずと見えてくるものだ。

そこには、達成感から生まれてくる大きな喜びそして満足感の中で新しい世界が広がるのだ。積み重ねの地味な努力が実を結び、開かずの扉が開かれ、更には描いた夢が具現化するものと信じて止まない。

又、諦めかけていた事にも、新たな視点から創意、工夫の先に明るい光が射してその成果が身近なものとなり、新しく生まれ変わるチャンスがそこにはある。

人生に貪欲に挑み、やれば出来るという自信と勇気を持とう。まさに「成せば成る何事も」の精神が大切である。これからの人生、自分次第でどうにでもなるものだ。自分の生き方をより充実したものとして、老体に鞭を打つまでもなく。

これからも、新しいものへと前向きに取り組みたいと興味津々の心境である。

「挑戦は飽くなき人生への長い道程だ」



## 私見 マムシ考

清原 正彦

チンパンジーは、極端にヘビを怖がります。

同じ霊長類の我々ホモ・サピエンスもヘビが苦手なようです。多くの方がヘビを見ると「ゾッとする」「怖い」「飛びかかって来そう」などと申されます。

学者さんのお話では、樹上生活をしていた何万年もの遠いご先祖様の時代に、大蛇に襲われていた記憶からではとの説もあるとのこと。

いずれにせよ、いまや恐れる必要のなくなったヘビの脅威に、むやみに恐怖嫌悪するのは、大人げないようにも思えるのですが・・・。

ヘビを見つけるとすぐに殺そうとする方がいらっやいます。中でもマムシとなると、問答無用。果たしてそれは自然の生態系に対して適切な対応なのでしょうか。



ましてや、最近では野山でシマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシなどこれまで身近にいたヘビを見る機会が減ったように思います。一説には、里山に住む人が減少してイノシシが進出。そのイノシシが食料源として栄養豊富なヘビを捕食しているのではといわれています。私もその説に共感しています。

そしてヘビの減少は野ネズミの増殖につながり、生態系のバランスが壊れる結果につながらないかと危惧します。

野山でヘビに遭遇しても、あわてず騒がずそっと見守ってやってほしいです。

ちなみに、「マムシは毒を持っている危険生

物ではないか」とおっしゃる方、マムシはむやみに人を攻撃しませんし、万が一咬(か)まれたとしても、直ちに医療機関で適切な処置を受ければ死に至ることはありません。(死亡事故の報告を読むと、咬まれても放置していたり、医療機関での受診が遅い場合に死亡しているそう)

私は、娘たちの観察用に3か月ほどシマヘビを飼っていたことがあります。

数日に一度、近くの田んぼでカエルを捕まえて餌にしていました。観察すると、カエルがじっとしている限りヘビは襲うことはありません。我慢できなくなったカエルが動いた瞬間にヘビはカエルをとらえるのです。啞(くわ)えたカエルは左右の顎を前進させて飲み込みます。飲み終わると外れた顎を元に戻すかのように口を大きく開いて右に左に屈伸運動。シメに水飲み場で水をぐいぐい。満足そう？表情をします。

お陰で、虫嫌いの娘たちもヘビだけは大丈夫。平気で手に巻き付けて遊んでいました。

本州に生息するヘビは8種。アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、ヒバカリ、マムシ、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラ。

毒をもつとされているのは、マムシとヤマカガシ(ヤマカガシによる死亡例はこれまでに2件のみと聞いています)。それ以外の6種は無毒。



タカチホヘビ

私は、タカチホヘビにはお目にかかったことがありません。いつの日か、野山でばったり出会ったときは、「初めまして。お会いできて光栄です」と挨拶したいと願っています。

## 海外ボランティア活動体験記-7 パラグアイ(1997-2002)

木村 裕

当時携帯電話はまだあまり普及しておらず、固定電話が中心でした。電話回線は不足しているようで、新たな回線設置にはかなり時間がかかります。電話局は威張っており、使用料を滞納するとすぐに切られてしまい、復活にはかなりお金がかかるようです。おまけに請求書がなかなか届かず、支払い期限ぎりぎり、ときには期限の日に届くこともあってワイフは戦々恐々で、いつも早めに電話局へ出向いて明細つきの請求書をもらうのですが、まだ請求書ができていないなどお役所仕事に悩まされました。また、選挙になると、電話が必要となるので、家庭用の回線をだまってぬきとることもあるそうです。

我が家の電話は入居直後からしばらくの間、家から外に電話をかけることはできたのですが、仲間から我が家へは通じず片道通行でした。大家に調べてもらったところ、大家が間違った番号を私たちに伝えたのが原因でした。ひどい！

電話のトラブル-1：仲間の一人が住んでいた塀で囲まれた一戸建て住宅群は、入口にはガードマンがおり、定時巡回もあり、電話線も地中配線、どちらかといえばハイクラス用住宅でした。しかし通話中に雑音がはいったり、通話ができなくなるなどトラブルが3か月ほど続き、修理をすると直るのだが数日後はまた故障、室内配線を替えてもよくなり、結局壁に埋め込まれた外線を取り換えて復活。屋敷内の植物に灌水するスプリンクラーの水が壁にかかっていたことが原因だったそうです。電話線の絶縁がそんなに悪いのか？

電話のトラブル-2：我が家のお向かいの同僚宅の事件です。電話がつながらなくなったので管理人を通じて修理をしてもらうと直るのだが2日もするとまた不通になる。この繰り返しを何度も何度も繰り返し、一向に全快しない。

日系人から少しお金を出すと直るのではと悪知恵をつけてもらい、管理人もそれが良いとの結論になりました。しかし、翌日にはまたしても不通。管理人を通じて電話局に怒鳴り込むと直るのだが翌日にはまた不通。この繰り返しが続くが延々と一か月ほど続きました。日系人の意見に我々の推測を加えると、彼の家は頻りに日本へ電話をかけていたので金持ちだと思われたのが原因では。修理業者がすぐに壊れるように修理したのか、電話局のオペレーターが故意にジャックを抜いて嫌がらせをしたのか、または回線を一時的によそに流用したのか、真相は不明。とにかく管理人が電話局に怒鳴り込むと数分で復活するのが不思議。このようなトラブルはよくあるらしく、みなさん給料が安いので、いろいろ工夫してアルバイト？に精をだすそうです。

パラグアイ人の楽しみはサッカーと木陰でテレレやマテを飲みながらのおしゃべりです。日曜日の昼下がり、街を歩くと、庭や道の木陰に椅子をおいてながながとおしゃべりにふけている人々が目につきます。

テレレとは、コップ状の容器に薬草を詰め、その中に冷たい水を注ぎ入れ、キセルのようなストローでその水を吸います。容器の容量は少なく、2回も吸えば空になり、再び新たな水をつぎ足します。これの繰り返しをそこにいる仲間たちの間で回し飲みしながら続けます。暑くて喉が渇いた時にはいいものですが、潔癖な日本人では慣れないと厳しいかも。これが好きな人はいつも容器、ストロー、魔法瓶を持ち歩き、車の運転中でも会議中でも、お茶を飲むような感じで飲みます。テレビのキャスターの中には放映中でも飲んでいますが。また、この容器とストローの形と材質は木製、銀製、角製など千差万別で自慢の一品もあるのかも。

気温の低い時期はマテは同じような容器(日本人から見ると)を使い、マテの樹の葉を砕いた物を詰め、熱湯を入れて吸います。コロナでこの習慣はどうなったのでしょうか？





# Gallery ならやま



オイルパステル はざかけ 有元 康人



陶芸 花瓶（備前風）  
坂東 由紀子



陶芸 忘れないよ、空ちゃん  
國方 まり子



竹細工 辻 敏美

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

# 行事案内 Part 1

## 朝日親と子の自然環境教室のご案内

藤原 勲

今や秋の恒例行事となった感のあるシニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日小学生新聞後援の「朝日親と子の自然環境教室」をならやまで開催します。

この講座は親子で自然に親しみ自然の不思議さ大切さを学び、合わせて親子の触れあいに役立てる事をテーマに、爽やかな秋の一日元気に楽しく過ごしていただく体験型イベントです。

今年も午前中は稲刈りを中心とした農事と、午後からは里山での小木伐採、薪割り、アスレチックなど親子での体験を通じて里山について学習していただきます。

### 実施要領

1. 日時：10月15日(日) 10:30~15:30  
前日、奈良県北部の降水確率が50%以上の時は10月22日(日)に順延
2. 主な内容  
午前：稲刈りを中心とした農事体験  
午後：里山体験と里山遊び
3. 参加者  
朝日新聞社・朝日小学生新聞を通じて事前に募集された近畿一円よりの親子43組  
シニア自然大学校よりスタッフ12名

今回も参加者の皆さまに安全かつ優しく丁寧に接していただけるスタッフの皆さまを約30名募集いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。



## 10月自然教室のご案内

### 「秋の馬見丘陵公園」自然観察会

小島 武雄

皆さまおなじみの田代貢先生と一緒に歩く、自然観察会のご案内です。

ダリア、コスモス、コキアなど見頃な、秋の草花が迎えてくれそうです。

「池部駅」改札出口から緑道エリア→北エリア→中央エリア→(下池/上池)

→中央南口から引き返して池部駅で解散

皆さまこそぞってご参加ください、お友達も歓迎です。

### 古墳群と秋の丘陵公園



### 実施要項

1. 日時：10月16日(月) 9:30~14:30頃(予定)
2. 集合場所：近鉄田原本線「池部駅」(改札出口付近)
3. 持ち物：弁当、お茶、筆記用具、あれば図鑑とルーペ
4. その他：申し込みは不要です。
5. 雨天時の中止は当会申し合わせ通りといたします。(但し、予備日は設けておりません)



# 行事案内 Part2



芋掘りイベントのご案内

## 秋の実りだ！ お芋を掘ろう

富江 文雄

暑くて長い夏が過ぎ、やっと秋が来たと感じられるようになりました。

今年も季節の味覚、サツマイモの芋掘りイベントを開催します。

炎天下、エコファームの皆さんが‘ツル返し’をし、雑草を取り、‘鹿’の害を防ぐ等の努力が実って、順調に生育し、形の良い美味しい芋に仕上がっています。

奮ってご参加ください。

大きさや形のコンペも同時に実施します。

### 記

1. 日時：10月28日(土) 10時—12時  
#雨天(前日午後7時前の天気予報で奈良県北部地方の降水確率50%以上)の場合は翌週11月4日(土)に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 参加者：佐保台子どもたちとその保護者  
\*会員のご家族もどうぞ
4. 内容：芋の話、芋掘り、里山の話
5. 持ち物：飲み物、軍手、スコップ
6. 服装：長袖シャツ、長ズボン、帽子、運動靴
7. その他：念のためマスクを持参してください。

担当幹事：飯島、富江、豊田



## 11月 月例研修会のご案内

### 紅葉の東近江、安土、近江八幡を訪ねて

富井 忠雄

今回の東近江、近江八幡は、まだ紅葉には少し早いと思いますが、混雑を避け企画しました。

湖東三山の百済寺、太郎坊宮、瓦屋寺、教林坊の紅葉と境内を散策後、休暇村近江八幡で近江牛を堪能。2日目は安土城跡・信長の館、近江八幡市内・水郷巡りなどを楽しみ、ラ・コリーナ近江八幡で見学・買い物をして帰路に。

### 記

1. 日時：11月6日～7日(雨天実施)
2. 集合：近鉄奈良駅前商工会議所前 8:30
3. 持物：飲物、雨具、ハイキング靴、
4. 会費：25,000円(バス、宿泊代、拝観料)  
各日の昼食は、各自でお願いします。

### <行程>

1日目 近鉄奈良駅 8時30分 - 名神高速 - 八日市 IC - 百済寺 - 道の駅東近江市あいとう(各自昼食) - 太郎坊宮 - 瓦屋寺 - 教林坊 - 休暇村近江八幡西館 17時頃(泊)

### \*夕食は近江牛食べ放題ビュッフェスタイル

2日目：休暇村 8時30分 - A 安土城跡&B 信長の館(文芸の郷) - C 近江八幡市内散策&D 水郷巡り(各自昼食) - ラ・コリーナ近江八幡 - 名神高速 - 近鉄奈良駅前 17時30分頃

\*A~Dを選択。D水郷巡り(80分)は別途乗船料金2,000円必要。

参加定員:28名(デラックスバス)

申込先；富井忠雄

世話人：青木、戸田、千載、福田



教林防

**2023年9月度 幹事会報告**

開催日：8月29日

I. はじめに

- ・8/24(木) 2:30頃、突風と雷雨あり大木が畑に倒れ通行不能になる。県土木事務所に連絡、翌日撤去された。今後も大木の危険倒木の恐れあり注意が必要

II. 会計・総務部より

- ・会員動向：入会者1名 149名(家族15名)
- ・会計：収支報告あり

III. 活動・行事関係

- ・11/6—7 月例研修会 近江八幡一泊研修
- ・11/23 秋のならやま自然観察会
- \*ならやまプロジェクト関係
- ・9/14までは夏時間とし、一日活動への変更は9/14に判断する
- ・田の水不足対策、水路補修も必要
- ・西池の田貝減少、原因不明
- ・農作物の生育不良、水不足も。参加者少ない
- ・高齢化によるパワー減少、活動のあり方について各Gで十分話し合いを

\*イベント関係

- ・9/23 こどもゆめくらぶ里山体験
- ・10/15 朝日親と子の自然環境教室 稲刈り
- ・10/28 芋掘りイベント 70名程度に人数制限
- ・10/12 佐保台小稲刈り
- ・10/初旬(木) 平城宮跡東側草刈り(未定)

IV. 企画、助成金事業案件

- ・今年度助成金報告書作成中
- ・2024年度助成金事業申請、年内に結果判明予定

V. 広報関係

- ・ネイチャーなら 10月号編成内容説明

VI. 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会
- ・佐保川小自然観察学習ほか



タイトルが「編集後記」から「こもれび」に変わった。この会報誌が皆さまに届く頃には、お日様も少し優しくなって、「こもれび」もいいねとなっていることだろう。

エコGは冬野菜の準備をし、パトロールGは秋の草花や果実をチェックする。草刈り隊もすこしは休める気分になっていれど願っている。

会報誌の仕事(?)に関わっていると、一年は早く、いつも季節を追いかけしている。

「暑さ」「寒さ」だけで中間の「ほっと」する時間が少なくなっている気がする。

「こもれび」を楽しみ、秋の味覚を味わう貴重な時間を、皆さまと共に過ごしたいと思っている。

各行事も目白押しだ。子どもたちを迎え収穫の喜びを知ってもらい、私たちは元気をもらえる時期が来た。



会員の皆さまの  
秋の便りもお待ちしております。

\*\*\*\*\*

**11月ならやま活動&行事予告**

- \*ならやま活動 11/2 協働活動日
- \*例.研 近江八幡一泊研修旅行 11/6—7
- \*自.教 ならやま自然観察会 11/23(木)

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：老朽化した日よけ屋根を、会員が補修作業をしました。

以上